



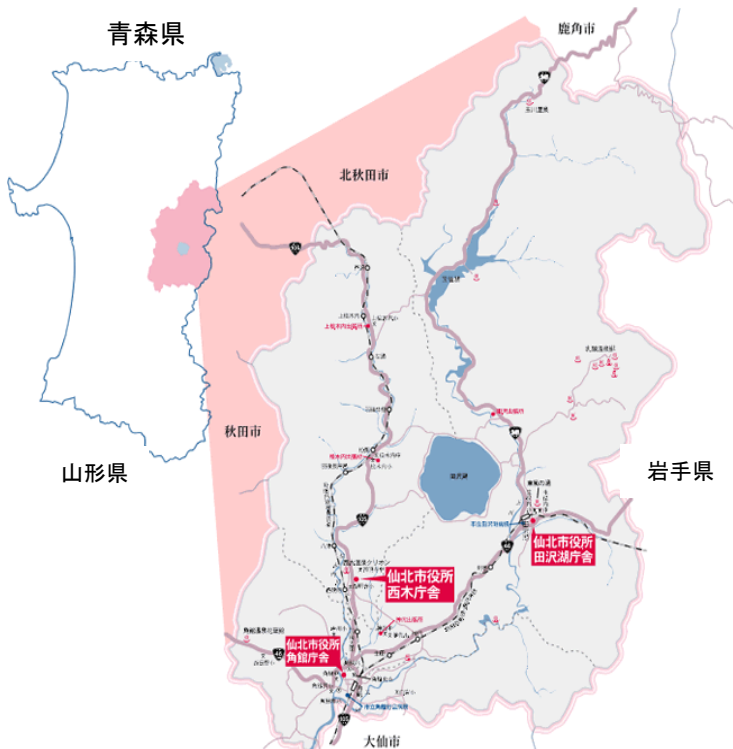
秋田県仙北市の取組



仙北市の概要 1

作成時点：H28年9月

自然環境等



平成17年9月20日に田沢湖町、角館町、西木村が合併し「仙北市」が誕生しました。介護保険制度については、大仙市、美郷町、仙北市の3市町広域で保険者として運営しています。

仙北市は、秋田県の東部中央に位置し、岩手県と隣接しています。ほぼ中央に水深が日本一の田沢湖、北には八幡平があり、地域の約8割が森林です。奥羽山脈から流れる美しい水、温泉など、自然豊かで観光にも力を入れています。

気候は、市の南北で気温、降水量ともに差があり、冬季には全域で平均気温が氷点下に達する厳しい寒さと、積雪量1mを超える豪雪地帯です。

鉄道やバス路線のない地域があり、通院や買い物等の移動手段の確保、高齢者世帯がほとんどで、数年後には互助困難な地域があり、どのように支援するかなど課題となっています。

仙北市の概要 2

基礎データ(平成28年8月31日現在)

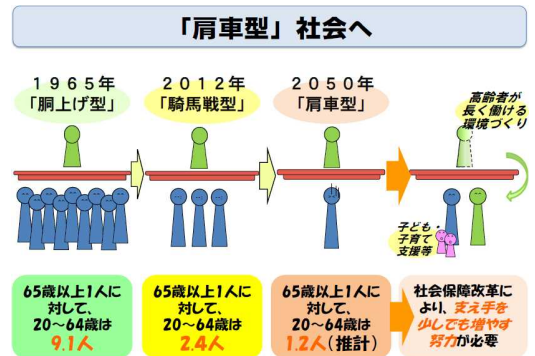
- 総人口: 27,710人
- 高齢者人口: 10,699人
- 高齢化率: 38.61%

- 後期高齢者人口: 6,008人
- 後期高齢者割合: 21.01%

- 要介護・要支援認定者数: 2,248人
- 要介護認定率: 20.87%
- 介護予防・生活支援サービス事業対象者(チェックリスト対象者)数: H28年度 8,468人

- 地域包括支援センター数: 1箇所(直営) 名称: 仙北市包括支援センター

- 第6期介護保険料: 6,100円



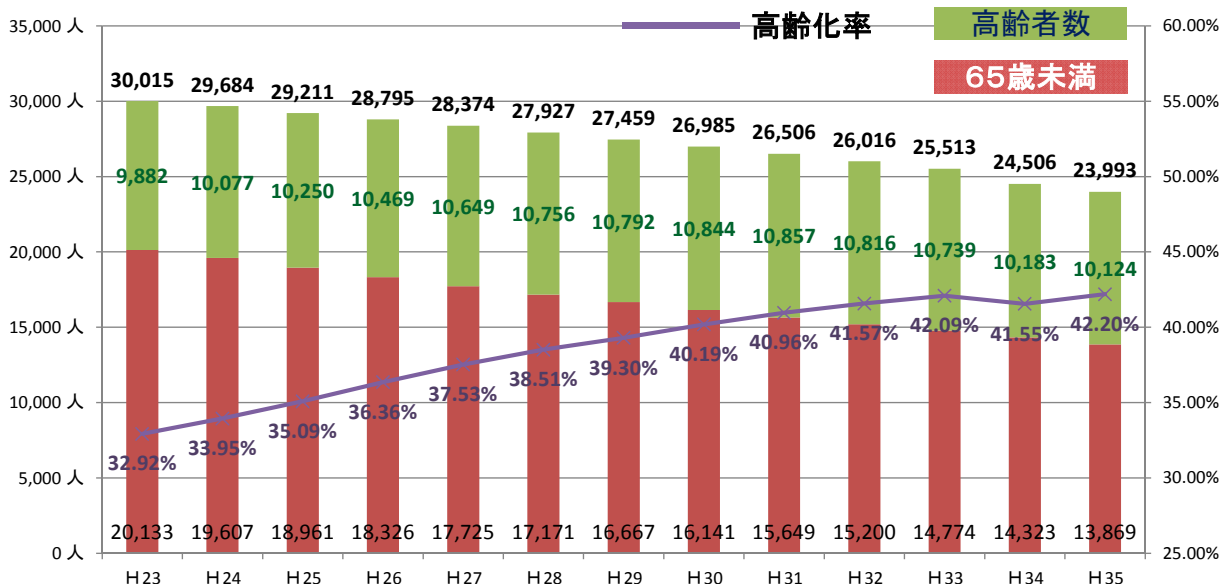
仙北市第1回研究会『さわやか財団』鶴山理事基調講演より

出典: 住民基本台帳、大曲仙北広域市町村圏組合介護保険事務所調べ

仙北市の概要 3

人口及び高齢化率推計

平成23年度から平成25年度までの実績を基に、コーホート要因法を用いて人口を推計した結果、平成23年までは人口30,000人を維持していましたが、平成28年に28,000人を割り込み、平成35年(2023年)には23,000人台まで人口が減少を続け、高齢化率は42.20%と推計されています。



《第6期仙北市高齢者福祉計画より抜粋》データはH26年7月31日現在のデータをもとに作成

仙北市の概要 4

人口推計・世帯数

(各年10月1日現在)

西暦年 (実推別)	2011年 実績	2015年 実績	2018年 推計	2020年 推計	2025年 推計
男性(人)	14,086	13,154	12,264	11,708	10,308
女性(人)	15,929	15,054	14,357	13,809	12,342
合計	30,015	28,208	26,621	25,517	22,650
高齢化率	32.92%	37.63%	40.61%	42.10%	45.25%
①15～64歳 (生産年齢)	16,969	14,825	13,463	12,675	10,884
②65歳以上	9,882	10,615	10,810	10,743	10,248
①÷②=	1.72	1.40	1.25	1.18	1.06

《第6期仙北市高齢者福祉計画より抜粋》データはH26年7月31日現在のデータをもとにコーホート要因法により作成

＜仙北市の世帯状況＞ (平成27年7月1日現在) ※世帯数に施設入所者は含んでいない

・仙北市の世帯総数 9,763世帯

・65歳以上の世帯 3,191世帯 (総世帯数の32.7%)

・65歳以上の一人暮らし世帯 1,859世帯

・65歳以上2以上の世帯 1,332世帯

※秋田県調査統計課「平成27年調査より

4

仙北市の事業実施状況

作成時点:H28年9月

地域包括支援センターの概要

出典:住民基本台帳、大曲仙北広域市町村圏組合介護保険事務所調べ

＜H18年4月1日開設時点＞

保健師2人、主任介護支援専門員1人、介護支援専門員1人、所長1人、事務職員1人の計6人で、「仙北市包括支援センター」として、市直営1箇所開設。



＜H28年4月1日現在＞

保健師2人、主任介護支援専門員2人、社会福祉士2人、所長1人、事務職員1人の計8人

生活支援コーディネーター(臨時職員)1人(6月～)

社会保障充実分事業の事務職員(臨時職員)1人(6月～)

※臨時職員を加え合計10人 ※直営1箇所変わらず



平成18年4月1日開設時

平成28年4月1日現在

総人口 32,330人 ⇒ 総人口 27,838人 (4,492人の減)

高齢者数 9,952人 ⇒ 高齢者数 10,678人 (726人の増)

高齢化率 30.78% ⇒ 高齢化率 38.36% (7.58%の増)

5

総合事業・包括的支援事業(社会保障充実分)

仙北市は、市民力と継続性を意識し進めます

【概要】

1. 新しい総合事業

仙北市は大仙市、美郷町と3市町で広域保険者として介護保険事業を運営している。広域構成3市町で平成29年4月1日実施することとして、サービス単価や契約書等の共通事項について、現在、検討を進めている。

2. 生活支援体制整備事業(平成27年10月1日～) ※さわやか財団、秋田県LL財団の支援を得ながら「時間がかかっても住民主体で」を合言葉に推進中。…これまでの経緯や概要は、後ほど。

3. 地域ケア会議

平成19年度からケアスタッフ会議として実施してきた。平成28年度から個別ケア会議→地域推進会議としてモデル的に実施、平成29年度から本格実施する。

4. 在宅医療・介護連携推進事業(平成27年10月1日～)

平成27年度末まで協議会準備会として3回実施。平成28年度より仙北市在宅医療・介護連携推進協議会として発足、これまでに2回実施。また、より多くの委員の意見を反映させることや事業の具体化を図る目的で、職種別の部会等を開催しながら進めている。多職種連携の会は、市全体の多職種連携の会、地区毎に課題が異なること、意見が言い易いことを意識し、市内3地区(田沢湖、角館、西木)でも開催する。

5. 認知症施策推進事業(平成29年1月1日～)

現在、認知症初期集中支援チーム員研修等に参加し準備を進めている。認知症地域支援推進員は2人を予定(1人は臨時)。認知症の人と家族に優しい地域づくりの推進とし、市内の全小中学校で認知症サポーター養成講座(寸劇を交え)を平成28年度から実施(今後、毎年継続)。※PTA学年参観日実施は効果的

在宅医療介護連携推進事業&認知症出前講座から

仙北市在宅医療・介護連携推進協議会準備会 & 協議会



市内全小中学校対象の認知症サポーター養成出前講座



仙北市の地域ケア会議 1

～基礎を固めつつ継続の視点で～

■経緯

ケアスタッフ会議 ⇒ 個別地域ケア会議 ⇒ 仙北市地域推進会議 ⇒ 市町村を超えた地域ケア会議
(平成19年度～) (平成28年度～) (平成28年年度末) (平成29年度中に)

平成19年度からケアスタッフ会議として、市内3地区で病院及び診療所の医師を中心に、薬剤師、看護師、介護支援専門員、地域包括支援センター職員で構成する会議を実施してきた。病院を入退院する患者さんや在宅で生活している外来患者さんについて、本人や家族の希望を基に、受診や服薬、在宅で暮らす際に注意すべき病状等について、「連携の役割分担」、「支援方針」を話し合う場、「情報交換」の場として実施してきた。

■今後の展望

平成28年度からは、3地区別(田沢湖地区、角館地区、西木地区)の「個別ケア会議」→市全体の「仙北市地域推進会議」を年度末に開催し、個別ケア会議で積み重ねられた各地域の課題について、市や関係機関への「解決策の提言」や市民への情報発信、仙北市在宅医療・介護連携推進協議会や仙北市生活支援体制整備事業実施第1層協議体との協働連携により、課題解決へ向けて推進する事としている。
また、平成29年度中に広域構成3市町(大仙市、美郷町、仙北市)で、互いの共通課題を検討する場としての会議を実施予定としている。

8

仙北市の地域ケア会議 2

■事業を遂行する上で、苦勞した点

これまで参加者が固定的で定期的を実施してきた会議から、本人や家族はもとより、民生委員児童委員、近隣住民、関係機関等、その都度、様々なメンバーとなることから会議日程の調整に苦勞した。また、地域性はあるものの、なかなか事例が見つからず、事例選択に苦勞した。地域包括支援センターとして、以前からの事業を継続しながら、「地域包括ケア構築」へ向けた新事業も遂行しなければいけないため、職員それぞれが複数の社会保障分の事業を担当し、事業推進に向けた担当者同士の会議の開催に苦勞した。

■事業を遂行する上でのポイント

- ・スムーズに事例選択ができるよう、市内の居宅介護支援事業者の管理者で構成するケア会議準備会を実施する。
- ・個別ケア会議の際、担当介護支援専門員では即決できない場合があるため、決定権のある管理者にも出席してもらう。
- ・地域包括支援センターの担当職員のみで進行するのではなく、当番制(持ち回り制)を導入し、資質の向上を図る。
- ・あくまでも、自立支援の立ち位置はブレないよう運営に配慮する。
- ・本人、家族、地域住民や関係者に対しては、エンパワーメントの視点を意識し関わりを持つ。
- ・会議の後に電話や直接面談により、参加者に対して、感想や言い忘れたことはないか確認(フォロー)すること。
- ・会議に参加する専門職については、常にその時々「最善」を意識し、「どうあるべきか」を念頭に考えを述べるようにすること。

9



地域ケア会議 & 多職種連携の仲間たち



10

仙北市の生活支援体制整備事業 1

仙北市生活支援体制整備事業の取組について ～取り組みのきっかけ～

- 平成27年7月 秋田県新地域支援事業市町村研修会に参加
 - ・LL財団で取り組んでいる「こまち助け合い推進研究会」を知り、参加したい旨を後日連絡
- 平成27年8月 こまち助け合い推進研究会に参加
地域支援事業における支え合い地域推進事業の**モデル市町村の指定**を受ける
 - ・県から委託を受けているLL財団の事業
 - ・さわやか福祉財団が協力



生活支援体制整備事業研究会を立ち上げる



11

仙北市の生活支援体制整備事業2

「市民力と継続性を意識して」
～時間がかかっても市民主体で～

■経緯

平成27年度10月から研究会を立ち上げ、3回研究会を開催。大づかみ方式にて、高齢者の生活支援に関わる方々、団体(社協、シルバー人材センター、地域運営体、警察、消防関係など)に声をかけ参加していただいた。

■取組

平成28年度、第1層協議体会議を6月から開催している。会議頻度は、都度会議時に、構成員の方々に確認しながら、必要に応じて開催している。現在、9/1市民フォーラム開催に向け協議を重ねている。

生活支援コーディネーター(SC)については、広報で紹介済み。他民生児童委員協議会や各種サロン、ミニデイ、介護予防教室などの集まりに参加し、周知、地域ニーズなどを聞き始めている。今後は、担い手の養成、地域で活躍できる人の人材発掘に力を入れていく。また、来年度第2層協議体設置に向けた準備も、今年度協議していく予定になっている。

■今後の展望

行政主導ではなく、「市民の方が主体」として、今後の仙北市について考えていただけるようなきっかけづくりをしていく。「仙北市に住んで良かったなあ～」と思える地域にしていきたいと考えている。構成員は、それぞれ地域において専門分野で活躍している方々である。その力や意識を、目指す地域像に向けて統一していくことが、第1層協議体として大事なことだと考えている。

12

仙北市の生活支援体制整備事業3

■事業を遂行する上で、苦労した点

「市が当然にやるべきこと。」と思っている市民も多い中、地域支え合いへの転換をどのように進めるか。協議体の運営は行政主導にならないように常に配慮したが、まとめようとすればするほど行政側でルールをしいてしまっていた。また、会議での「沈黙」は特に職員の焦りをさそった。「沈黙のない会議はないと割り切り、待つこと。」「分野や地域が違う人々の集まりなので、共有するには時間がかかると割り切ること。」とした。「地域づくり」という目標がブレなければルールは少しくらい曲がっていても良いと考えている。職員が慌てないためには、進行役である会長とは事前に十分に打ち合わせをすることだと実感している。会議の際は、構成員の方々が、ざっくばらんに意見を出し合える雰囲気作りを心がけた。

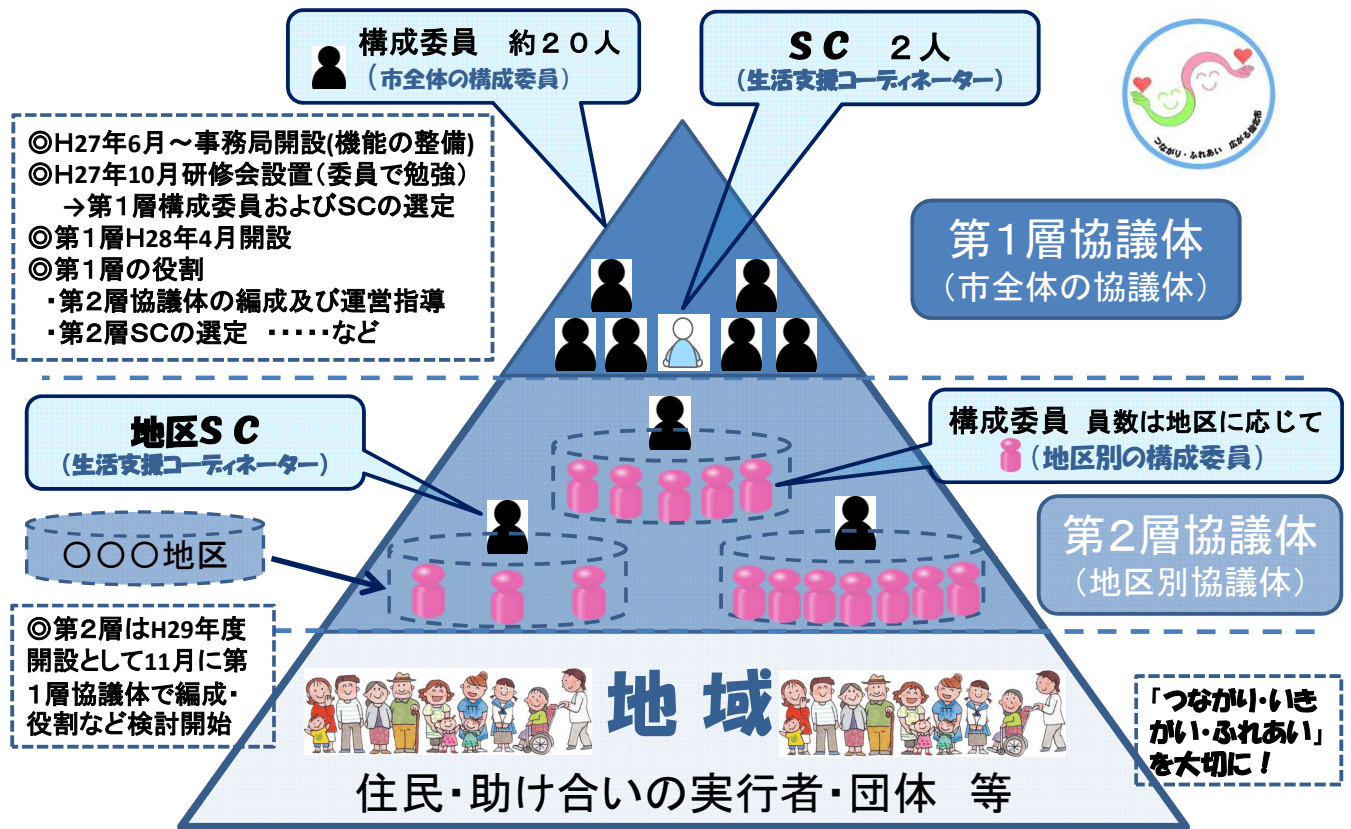
■事業を遂行する上でのポイント

- ・協議体のメンバーは、肩書きではなく、地域づくりや助け合い活動に熱意がある、各年代の男女の参加に配慮する。
- ・距離感が縮まる、意見が出し易いなど利点が多いグループワークを多く取り入れる(適宜メンバー換え)。
- ・行政主導で地域づくりを進めていくのではなく、「市民が中心」となって助け合い活動を広めていけるように配慮する。
- ・第1層協議体構成員は、固定せずに、必要な協議時に、他団体、個人から参画していただけるような要項を作成する。
- ・メンバー全員が発言できるように機会をつくる。また、司会とメンバー全員に発言の機会をつくることを確認し合う。
- ・会議や活動の後に電話や訪問により、メンバーに感想や言い忘れなど確認(フォロー)する。

研究会の時点から、会長を選出し司会進行を依頼した。依頼するにあたって、会議毎の事前の打ち合わせは重要だと感じている。重複してしまうが、行政の考え方ややり方を押しつけるのではなく、市民が、「自分達のまち・支え合い」について考えていくにはどうしたらよいかを念頭に、「慌てず、焦らず」、地域の実情に応じて取り組んでいくことが大切だと考える。

13

仙北市のSC & 協議体の役割 市民力と継続性を意識して！



※仙北市「地域づくり」の基本的な図であり、随時、住民・地域に沿ったものに改正(変化)します。

仙北市生活支援体制整備事業から

◇第1層協議体構成団体など◇ ※構成団体及び選任方法は研究会で決定

	構成団体名	構成委員選任方法など
1	仙北市社会福祉協議会(本所)	社協推薦(地域福祉の専門団体)
2	〃 (角館支所)	社協推薦(地域福祉の専門団体)
3	〃 (田沢湖支所)	社協推薦(地域福祉の専門団体)
4	〃 (西木支所)	社協推薦(地域福祉の専門団体)
5	消防署	消防署推薦(安全・安心連携機関)
6	警察署(生活安全課から)	警察署推薦(安全・安心連携機関)
7	郵便局	郵便局推薦(見守り・声かけ・安否確認等公的機関)
8	地域運営体(9地区で構成)	協会推薦(地域支援実施団体)
9	民生委員児童委員	協議会推薦(小地域相談支援者)
10	ボランティア連絡協議会	協議会推薦(互助推進団体)
11	建設業協会	協会推薦(除雪・住宅・道路等専門団体)
12	婦人会	会推薦(女性代表団体)
13	ケアマネージャー	介護サービス実務者から
14	NPO法人団体(えがったな)	NPO法人 団体地域支援隊
15	シルバー人材センター	有料有償サービス団体
16	老人クラブ	連合会推薦(高齢者代表)
17	子育てサポートはっぴい・ママ	子育て支援団体(子と保護者を支援している立場から)
18	女性消防団	30代～40代働く女性・地域支援の代表として
19	社会福祉法人こまくさ苑	市内社会福祉法人の代表として
20	荒川尻交流サロン	地域の高齢者サロン実施団体として

仙北市生活支援体制整備事業から

生活支援体制整備事業実施研究会



生活支援体制整備事業実施協議体



16

仙北市生活支援体制整備事業（H28年9月1日市民フォーラムから）

～みんなで支え合うまちづくりフォーラム～

フォーラムチラシ



やる気のね
人は誘わね！
(一同 爆笑)

こっちで陳立っ
てくるから！

ボランティア
やっても
いい人、手
挙げて！
オ～…



やっぱり、お互
いの助け合い
必要だわね！

市民フォーラム

みんなで支え合う まちづくりフォーラム

平成27年度春、介護保険法改正において、「地域包括ケアシステムの構築」に向けた重要施策の一つに、生活支援体制整備事業があります。仙北市では、**住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり**に向けて動き始めます。あなたの一歩が住みよいまちづくりにつながります。このフォーラムを通して、みなさんと一緒に考えましょう！

日時

平成28年9月1日(木)

13:30～16:30(受付 13:00～)

参加費無料

定員
150名

場所

西木温泉ふれあいプラザクリオン
多目的ホール

お申込は8月15日まで
電話またはファックスをお願いします

◆基調講演
「地域の支え合いで安心して暮らせるまちづくり」
講師：公益財団法人さわやか福祉財団 会長 堀田 力氏

◆パネルディスカッション
「私たちはこんな助け合い活動をしています」

堀田 力

パネリスト 竹下正勝氏 NPO法人地域支援隊えがったなあ代表理事
鈴木勝一氏 武蔵野下5町内会・東風の会代表
佐藤信子氏 NPO法人北秋田ハッピーデリバリー理事長

コーディネーター 堀田 力氏 公益財団法人さわやか福祉財団 会長

17

仙北市で実際に地域で 取り組みを行っている団体

ご紹介コーナー

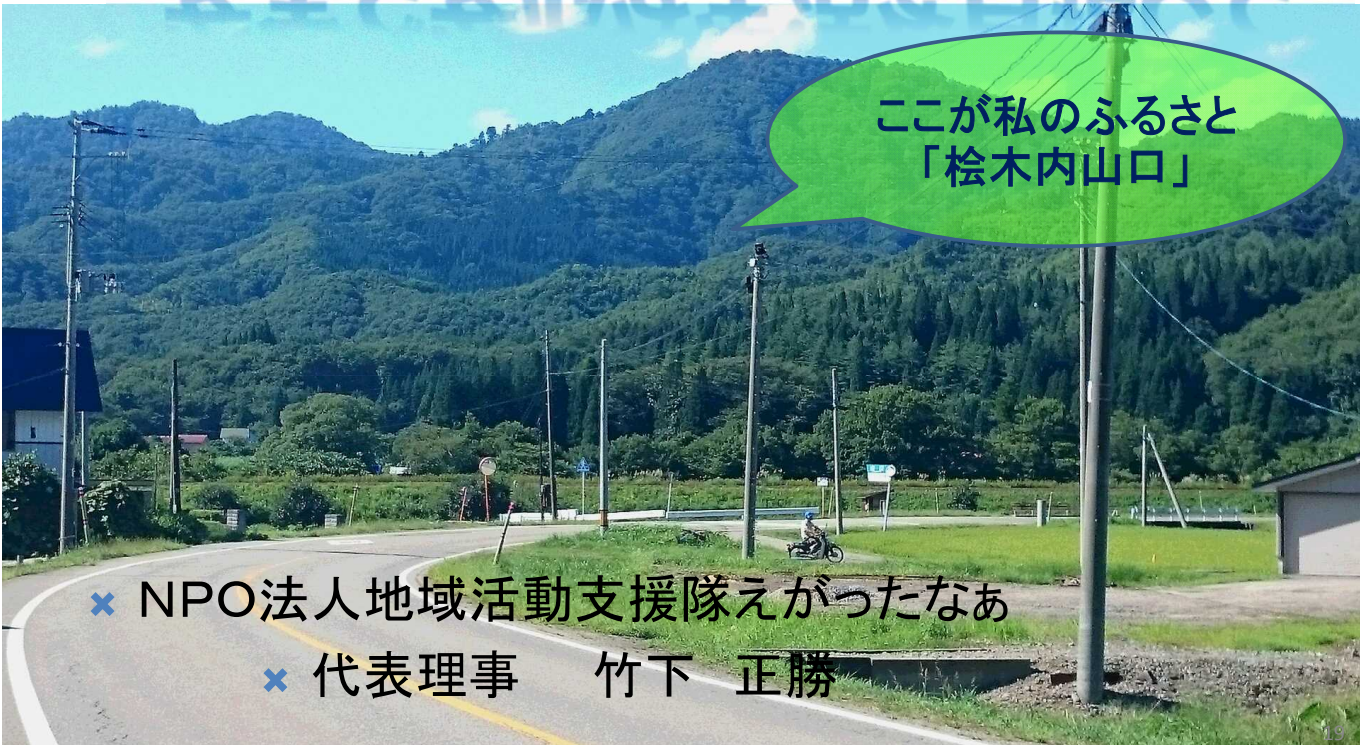
NPO法人 地域支援隊

“えがったなあ”

要望あれば、市内どこさでも！

18

“えがったなあ” と思える
安全で安心な生活を目指して



ここが私のふるさと
「桧木内山口」

- × NPO法人地域活動支援隊えがったなあ
- × 代表理事 竹下 正勝

活動のきっかけ

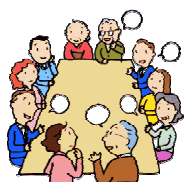
動けるうちは活動し、若い人も交えて、みんなの老後を地域全体で支え合っていきたい。

20

“えがったなあ”の組織

理事 5人

一般会員 21人



- 年齢層 20歳代～70歳代
- 最も活動している年代 60歳代10人位
- 入会費 10,000円
- 年会費 5,000円
- 他に災害共済保険(会からの補助あり)

**サービス利用者は登録無用、
入会金無料、年会費無料、利用時のみ対価**

21

“えがったなあ” 活動内容

1. 味噌づくり
2. 雪下ろしや雪よせ
※作業員1人/1時間=1,500円
3. 冬囲い ※作業員1人/1時間=1,000円
4. 草むしり ※作業員1人/1時間=1,000円
5. 草刈り ※作業員1人/1時間=1,000円(機械油代含む)
6. 小屋の解体 ※対価は相談
7. 農作業の手伝い(苗の植え付け等) ※対価は相談
8. 冬期間月1回程度の高齢者交流



活動範囲

仙北市内 ご希望のあるところへ



22

“活動継続のコツと課題”

コツ

- 高齢者と日頃から会話し、顔を知ってもらう
- 頼まれたことをしっかりやって、実績を積み上げる…そして信頼関係をつくる

課題

- 活動を拡大するためには、人材が不足している

23

“えがったなあ”からメッセージ

- 話っこして“えがったなあ”
- 聞いてもらって“えがったなあ”
- 頼んでみて“えがったなあ”
- やってもらって“えがったなあ”



24

☆…最後に…☆

ふれ愛・つながり愛・みとめ愛



仙北市
生活支援体制整備事業シンボルマーク

住み慣れた地域で安心して暮らせるように、一人ひとりがつながり、手を取り合っ
て助け合いが広がる「まちづくり」をイメ
ージしています。

仙北市は、「住み慣れた地域で、それぞれの居
場所を確保し、共に支え愛」を目指します！

25